

ペテロの回復

鍵となる聖句：「食事が終わると、イエスはシモン・ペテロに言われた。『ヨハネの子シモン、あなたはこれらの人たちよりもわたしを愛していますか。』ペテロは言った。『はい、主よ。あなたが、私があなたを愛していることを知っておられます。』イエスは言われた。『わたしの小羊を養いなさい。』」

ヨハネによる福音書 21:15

関連聖句：

ヨハネ18:15-18, 25-27; 21:15-17

復活後、四十日間の間、キリストは常に御臨在しておられたが、弟子たちには断続的にしか見えなかった。その間、キリストは弟子たちに御自身が復活されたことを確信させ、彼らの信仰を強め、御自身の昇天後の彼らの役割について指示を与えられた。そうした出来事の一つが、「ティベリアス湖」、すなわちガリラヤ湖で起こった。ヨハネ 21:1

今日の聖書の箇所では、イエスが弟子たちに舟の右側に網を投げるよう指示された後、弟子たちは奇跡的な大漁を体験しました。彼らは当初、岸に立っておられる主を認識できませんでした。その後、「イエスが愛しておられた弟子」であるヨハネは、そこに立っている見知らぬ人が復活された

主であることを悟り、その確信をペテロに告げました。ヨハネによる福音書21章3-6節

行動派のペテロは、以前キリストを否認したことによる心の痛みを依然として抱えていたに違ありませんが、海に飛び込んで岸まで泳ぎ着きました。しかし、陸に上がると明らかに臆病な様子を見せました。彼は直接イエス（ ）のもとへ行くことはせず、待ってから、魚でいっぱい網を岸に引き上げるのを手伝いました。舟が岸に着き、しっかりと固定されて安全が確保されると、見知らぬ人が炭火を焚き、その上に魚を載せ、疲れ果てた者たちを「来て、食事をしなさい」と招いているのが目に入った。ヨハネ21:7-12

三度繰り返された同様の問いかけの最初において、私たちの鍵となる聖句は、イエスがペテロに、漁業よりも自分を愛しているかどうか尋ねたことを記している。イエスはその後、二度目に彼に言われた。「ヨハネの子シモン、あなたはわたしを愛していますか。」彼は答えた。「はい、主よ。あなたが、私があなを愛していることを知っておられます。」イエスは言われた。「わたしの羊を養いなさい。」三度目に、イエスは彼に言われた。「ヨハネの子シモン、あなたはわたしを愛していますか。」ペテロは、イエスが三度も「あなたはわたしを愛していますか」と尋ねられたので、心を痛めた。彼は言った。「主よ、あなたはすべてをご存じです。私があなを愛していることを、あなたはご存じです。」イエスは言われた。「わたしの羊を養いなさい。」ヨハネ21:16,17

ペテロについて考えるとき、私たちは、たとえ他の者たちが皆イエスを見捨てたとしても、自分だけは決してそうはしないと彼が言ったことを思い起こします。主が予言された通り、鶏が鳴くのを聞いたとき、彼の心はどれほど深く傷ついたことでしょうか。彼は主を三度も否み、口からはののしりの言葉が飛び出しました（マタイによる福音書26章69-75節）。これは、私たち人間のもろさと、互いに憐れみを示す必要性について、力強い教訓となっています。ガリラヤ湖のほとりでのこの出来事において、イエスはペテロとの対話の中で、実質的に彼を安心させようとしていたように思われます。そうすることで、主は、ペテロが将来、注意を払い、主のふさわしいしもべとして復職した後、その生涯の終わりまで犠牲の祭壇にすべてを捧げ続けるだろうという確信を示されたのです。

この事柄を十分に理解することは、きっと私たちが天の父に似た心へと導いてくれるはずです。私たちは、自分の行いにおいて公正で、義にかなった、清い者となるよう努めるだけでなく、他者に対しても憐れみ深くありたいと願うようになるでしょう。なぜなら、他者もまた、私たちと同じように困難を経験しているからです。詩篇136:1-26